



歯科医師コラム

H27. 9. 1.

VOL. 5 インプラント治療の メリット・デメリット

予防歯科を推進することは重要ですが、それでもやはり歯を失ってしまうことは避ける事ができないことも解ってきました(10%程度)。残念ながら予防しきれず歯を喪失してしまった場合、主に3つの治療法から選ぶことになります。

昔からある治療法として、ブリッジ(固定性架橋義歯)、入れ歯(可撤性床義歯)が挙げられます。

歯を失った部位によっては、まずはブリッジを選択することが多いと思います。よほどの事がなければ、ほとんど違和感無く出来上がるものです。

しかし、歯を多く失ってしまった後には、取り外し式の入れ歯を選択することになってきます。一般的に入れ歯は残された歯と粘膜に維持・支持を求めため、違和感が強かったり痛みが出ることがあります。また、入れ歯に良く見かける維持装置(針金様のもの)は義歯安定のために必要不可欠な装置ですが、これが審美性・発音等に問題が残ることも多いようです。そして何より、義歯を取り外す時などに感じる老衰感に拒否感を覚える方が非常に多いようです。

それらの入れ歯の問題点を払拭することで登場したのが、最近用いられることが多くなったインプラント治療になります。基本的に喪失した1歯の持っていた機能を1本のインプラントがそのまま担うものであるため、残存歯や粘膜に負担をかけることなく単独でほぼ100%の機能を回復が可能となります。これは、入れ歯に纏わる審美性や違和感等のすべての問題を払拭するものです。そういう意味においてインプラント治療は、生活の質 QOL を大きく向上させるもののひとつと言えるのです。

さらに、インプラントは歯科臨床における予防的意味合いも兼ね備えています。一般に歯の喪失は、多くの歯を失う事になればなるほど加速度的に歯・歯列の崩壊へとつながることが多いのです。その予防策としてインプラントを応用することにより、両隣在歯に全く侵襲を加えることなく機能を回復・維持することができます。このことは、歯の保存や力学的対応による崩壊の回避という意味においてこの上なく望ましいことなのです。

一方、最近になりインプラントに纏わる苦情や訴訟も増加傾向にあります。この多くは、インプラント周囲に感染をきたすインプラント周囲炎を併発していることが多いとされていま

す。施術されたインプラント治療に満足な結果が得られないどころか、機能的・審美的不具合さらには感染による出血や排膿・疼痛が改善されないこともあるようです。結果として、担当歯科医に不信感を抱かざるをえない状況に陥り仕方なく他の歯科医院を訪ねることになる、しかしながら、新しく訪れた歯科医院では”インプラントに関する知識はない”と断られたり、出会う歯科医師によってあまりにも説明が違いすぎて戸惑ってしまうという声も聞きます。

インプラント治療が必要になった場合には、セカンドオピニオンやサードオピニオンは必ずされた方が良いと思っています。その中で、納得のいく治療方針を選択することが最善策といえるでしょう。



プレミアムデンタルケア恵比寿・代官山
歯科衛生士：安岡亜依子／院長：高井基普

E-MAIL info@premium-dc.com

TEL 03-3780-5599

< 院長略歴 >

平成 10 年 岡山大学歯学部卒業

平成 19 年 UCLA Center of Aesthetic ショートタームフェロー

平成 19 年 東京ミッドタウンデンタルクリニック院長就任

平成 23 年 プレミアムデンタルケア恵比寿・代官山 開業

現在に至る